

目 次

P.1 世界への窓口・所沢陸軍飛行場
 P.2-3 講演録(前編)
 『日本で初めて飛行機が飛んだ町、所沢の昔と今』
 P.4-5 第26回所沢図書館まつり
 開催報告
 P.6-7 講演録(後編)
 P.8 図書館長のつぶやき

復刊

いざみ

世界への窓口・所沢陸軍飛行場
 航空資料コーナー開設に向けて(3)
 荒山 彰久

所沢陸軍飛行場に着陸した外国機 1924年(大正13年)～1927年(昭和2年)

期間(年月)	国 名	搭 乗 者	飛 行 機	発 着 地
1924. 4～6	フランス	ドワジー(ドアジー)	ブレゲー19A2→14	パリ→所沢
1925. 6～9	ソ連	グロモフ	ポリカリポフ R-1	モスクワ→所沢
〃	〃	ヴォルコヴォイノフ	〃	〃
1926. 3～6	デンマーク	ポドヴェド	フォッカーC. VE	コペンハーゲン→所沢
1926. 8～9	ポーランド	オルリンスキー	ブレゲー9	ワルシャワ→所沢
1927. 8～9	チェコスロバキア	スカーラ	レトフ S-16	プラハ→所沢

第一次世界大戦後の世界では、オーストリア・ハンガリー帝国の崩壊、社会主義国家ソビエト連邦の誕生、小国の独立など、国際情勢が大きく変化するとともに、航空界も新たな航空路開拓を求めて世界的ブームとなった。この状況は日本にも影響を与え、その最初はイタリア機の代々木練兵場着陸であるが、次が所沢陸軍飛行場であった。1924年(大正13年)に日本で最初に外国機が着陸した飛行場として、以後3年間世界への窓口となっている。この間、【上表】のように、5か国の飛行機が6回、6人の操縦士機関士等同乗者を含めると12人が来日している。ここでは、このうちの3人の操縦士を紹介しよう。

①ペルティエドワジー：大戦中陸軍航空隊に所属し、6機を撃墜したエース。途中大阪に着陸し、大戦中仏航空隊の同僚、滋野清武男爵の歓迎を受けている。所沢に到着後は所沢市民の大歓迎を受け、またクロードル仏大使と握手している写真が新聞に報道された。【写真】

②ミハイル・グロモフ：ソ連から二組が飛来したが、このうちグロモフは

荒山 彰久氏
 航空史研究者・所沢航空資料調査収集する会会員。



(写真説明)

所沢飛行場に着陸したドワジー、クロードル仏大使と握手する(上)と小旗を振って歓迎する所沢市民
 「東京朝日新聞 1924年(大正13年)6月10日」

この飛行後の1937年(昭和12年)ツポレフ ANT-25でモスクワからアメリカのサンジャシントまで、約10,000キロを飛んだ操縦士として、ソ連の英雄になった。

③ボレスワフ・オルリンスキー：ポーランドはロシア帝国に占領されていたため、第一次世界大戦中はロシア帝国軍に入隊。大戦後独立したポーランド軍に入隊した。その後航空学校を卒業して憧れの日本に飛来する。第二次世界大戦中は、ポーランドがソ連とドイツに占領されたため、イギリスに亡命。英空軍爆撃中隊に所属して活躍した。

所沢図書館講演会

日本で初めて飛行機が飛んだ町、

所沢の昔と今

講師 中村 眞一氏

令和7年11月14日(金)

会場 所沢図書館本館3階集会室

この記事は、令和7年11月14日(金)に開催された所沢図書館講演会『日本で初めて飛行機が飛んだ町、所沢の昔と今』より、特に所沢にゆかりのあるお話を抜粋し、前編(2-3ページ)と後編(6-7ページ)に分けて掲載します。

前編



前編は、所沢の【昔】、所沢飛行場や飛行機の歴史をご紹介します。

日本の飛行場の始まり

明治36年、アメリカのライト兄弟が、ライトフライヤーに横ばい約12秒間約36m飛行しました。これが『人類初の動力飛行に成功した歴史的瞬間』です。これに続

くように欧米諸国では飛行機が発展していききました。

それに刺激された日本政府は、明治42年7月、勅令により「臨時軍用気球研究会(以下、研究会)」を発足しました。会員には、初代会長の長岡外史陸軍中將や、田中館愛橋帝國大学教授、陸軍初代気球隊長の徳永熊雄少佐らを中心に陸軍や大学教授等の民間研究者から適任者14名が選ばれました。陸軍は研究会に【飛行場を造る】、【飛行機を操縦する人を育てる】、【飛行機を購入する】の3つの課題を与えました。

日本初の飛行場が所沢に決まる

研究会は、飛行場の候補地の条件として、①雷が少ない、②地形がなだらかで起伏が少なく、滑走路の造成が可能で、将来拡張が可能、③高压電線が近くに無い、④

交通の便が良く、気球隊本部がある東京中野から交通の便が良い」という4つを挙げ、徳永委員らを中心に候補地を絞りました。その結果、栃木県大田原市、千葉県佐倉市、神奈川県相模原市、そして、埼玉県所沢市の所沢・松井地区を挙げ、候補地近辺の環境等について調査を行った結果、「所沢・松井地区が最適である」と判断し、長岡会長らが改めて視察をした上で陸軍から政府に答申しました。政府は、住民に「所沢・松井地区が飛行場用地に決定した」旨を傳達したものの、当時は飛行場の意味が分からない住民も多く、用地買収や売却値に難航したそうです。そこで、所沢最大の財閥で所沢織物買継商・所沢銀行の創設者の向山小平次氏が自ら大金を寄付し、松井村は村の有職者である鈴木源一氏が中心となって、「飛行場の建設は地域の発展に大きく貢献する」と6ヶ月掛けて住民を説得し、約23万坪の土地が飛行場用地として登記されました。こうして、日本で初めての飛行場が所沢に決定しました。

所沢飛行場に滑走路・施設の建設

研究会は田中館教授が中心となり、欧米諸国の飛行場を参考に、滑走路及び施設建設の計画をしました。住民の協力を得て、元々、芋畑やお茶畑だった土地の地ならしから始めた後、滑走路、気象観測所兼事務所、格納庫、軽油庫、正門の建設に取りかかり、明治44年4月1日に、所沢飛行場が完成しました。正門には「臨時軍用気球研究会所沢試験場」の看板が掛けられ、長さ400m、幅50mの滑走路が、現在の所沢航空発祥記念館と彩翔亭の間にある窪んでいるエリアにつくられました。



現：沈床茶園

所沢飛行場での初飛行

陸軍は所沢飛行場での飛行演習を、明治44年4月4日から予定していました。初日は風のため、中止となりましたが、5日は飛行日和となり、徳川好敏大尉は、陸軍の関係者、大勢の見物人が見守る中、アンリ・ファルマン機に搭乗

し、午前5時37分、滑走距離約30mで離陸し、高度約10m、距離約80m、時間1分20秒間の初飛行に成功し、陸軍はこの記録を「日本で初の飛行場での飛行」に設定しました。

この時、所沢町と松井村の商店街は「祝・飛行場開設と初飛行」と大書した横断幕を掲げ、各戸は日の丸を掲揚して祝い、町の通りにはお土産や食べ物などの屋台が出るなど、飛行の成功にお祭り騒ぎだったそうです。また、現在の銀座通りにかつてあった山田屋呉服店前の道路は飛行成功を祝う人で身動きも出来ない程の混雑だったとのことでした。

当時は飛行機が珍しいので、飛行機が飛ぶ日は、毎日町民のみならず多くの近隣の住民も早朝から押しかけ、鉄道に乗れないほどの混雑で、人々から飛翔の度に歓声が上がっていたと当時の新聞が報じています。

その後、第二回目の飛行演習が行われ、6月9日には徳川大尉が、所沢〜川越間を飛行し、日本で最初の野外飛行に成功しました。

フランス航空教育団の来日

第一次世界大戦を経て、陸軍の井上幾太郎少佐（後に大将）は、日本の航空機に関する技術や飛行機の保有数が欧州の各国に比べ遅れていることを痛感し、航空先進国であるフランスに協力を求めました。フランスは第一次世界大戦の同盟国である日本の航空技術の発展のために教育団の派遣を快諾し、ジャック・ポール・フォール大佐を団長とする先遣隊41名（後に延べ総数63名となる）を日本に派遣しました。一行は大正8年に神戸に上陸した後、東京駅での滞在を経て、所沢駅に到着し、政府高官、埼玉県知事から各村長に至るまで多数の方に出迎えられました。この時、飛行機新道から飛行場までの道を、所沢小学校の生徒が整列して、フランス国旗を手にフランス国歌を歌い歓迎しました。教育団は教育用の飛行機として30機以上を持参し、それらを岐阜県各務原や所沢など7ヶ所の教育場所に配置し、8部門の教育を行いました。

所沢では機体製作班と気球班に分かれ、機体製作班はサルムソン

偵察機等の飛行機の製作技術の教育を受け、気球班は教科書の翻訳、操縦と偵察などの教育を受けました。当初、3ヶ月の予定でしたが、1年3ヶ月に延長されました。

教育団の指導が日本陸軍の航空技術の発展に寄与した功績は計り知れない程大きく、フォール大佐は「日本の航空の父」として尊敬されてきました。さらに、フォール大佐は日本滞在中、日本の研究にも努め、日本語を勉強する傍ら日本の歴史、文化に強い関心を示し、熱心に取り組む姿に街の人からも尊敬されていました。

政府はその功績に対しフォール大佐の胸像を建て、教育団63名を刻んだ銘板を設置しましたが、太平洋戦争中の金属供出で台座を残し、銅像と銘板は供出されてしまいました。昭和57年、所沢市は残された図面を基に現在の胸像を復元しましたが、63名を刻んだ銘板は復元されませんでした。

フランス航空教育団

来日100周年 記念式典

フランス航空教育団が来日して100年を迎えるにあたり、東京大学

大学院名誉教授鈴木真二氏を委員長とする「フランス航空教育団来日100周年記念事業実行委員会」が発足され、平成31年4月7日に、所沢航空記念公園の野外音楽堂にて『フランス航空教育団来日100周年記念式典』を開催しました。式典には所沢市長、埼玉県知事、文部科学大臣、防衛省統合幕僚会議議長、東京大学大学院名誉教授、駐日フランス大使、フランス大使館国防武官等多数の来賓が参列しました。

また、フランスから当時の教育団のお孫さん6名が参列しただけでなく、父が陸軍各務原飛行場で教育団から航空技術を教わったという漫画家の松本零士氏も特別に参列しました。

この式典に先立ちフォール大佐の台座に63名の名前が刻まれた銘板を復元しました。

後編では、
所沢の【今】を
ご紹介します♪



Day. 1

飛行機の工作会



ボードゲームで遊ぼう



本の木を育てよう



クイズラリー



本館

角川武蔵野ミュージアム 書棚展示



Day. 2



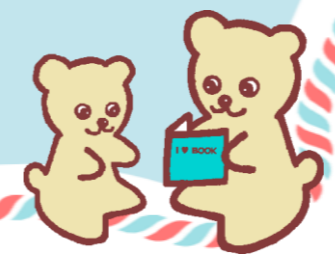
ミニコンサート



第26回 所沢図書館まつり 【みんなの力で飛び立て図書館】 を開催しました！

令和7年11月1日～12月14日に所沢図書館の本館・各分館で、所沢図書館まつりを開催しました！

各館で様々なイベントを行い、多くの方にご来館いただきましたので、当日の様子をご紹介します。



本のリサイクルフェア



柳瀬分館

所沢分館



富岡分館

樺峰分館

貸出・返却体験



新所沢分館



狭山ヶ丘分館



スペシャルおはなし会

吾妻分館



松井小学校 図書館



後編



所沢駅近くの倉庫だった場所は…

陸軍は運んできた飛行機や部品を所沢駅の近くに保管しておく場所が必要と感じ、土地を買収し、倉庫を造り、駅から倉庫まで引込み線路を引きました。所沢駅で降りた飛行機や部品等を一旦、この倉庫に保管し、ここから飛行場まで飛行機新道を通り飛行場まで運びました。この倉庫は飛行場の南にあるため、「南倉庫」と呼ばれていました。この南倉庫は、後に歴史ある飛行機や飛行機に関する資料を展示した航空博物館となりました。終戦後、南倉庫の場所は西武鉄道に移管され、西武鉄道の車両工場となりました。その後、倉庫、駐車場として使われていましたが、令和6年、商業施設「エミテラス所沢」が開業し、現在に至っています。

大正天皇、所沢飛行場に行幸

陸軍は大正元年11月、関東地方で陸軍特別大演習を開催しました。演習は川越・所沢地区を中心に、関東全域で行われ、航空機も初めて参加することになりました。明治天皇が崩御されて間もない時でしたが、井上幾太郎大將は、大正天皇に航空機の飛行の統監を推奨し、大正天皇は17日、気象観測所の屋上にお立ちになり、航空機の飛行を統監しました。

この時、大正天皇は川越に宿泊しましたが、天皇に同行した他の皇族、政府要人、将校らの多くは所沢町や松井村の民家に宿泊する事になり、道路の修理や、主要道路への燈籠・街灯の整備や設置、各戸の軒先に提灯を掲げる等、住民にとって一大行事となりました。その後、所沢神明社境内には、大正天皇行幸を記念して「所澤駐蹕（ひつ）碑」が建てられました。

※行幸…天皇が外出すること

駐蹕…行幸中に滞在すること

駐蹕…行幸先に一時的にとどまること

さらに、大正天皇が所沢飛行場に行幸され駐蹕（れん）されたことに伴い、大正4年、三殿下（皇太子殿下、秩父宮殿下、高松宮殿下）が所沢飛行場を訪ねています。所沢町は大正天皇の行幸、皇太子殿下や皇族のご来場を記念して町名をめでたい名称に改めました。

明治45年	大正4年	昭和40年
上町区	本町区	元町
上仲町区	元幸町区	
下仲町区	寿町区	寿町
下町区	御幸町区	御幸町
裏浦町区	有楽町区	有楽町
河原宿区	宮本町区	宮本町
金山区	金山町区	金山町

所沢陸軍衛戍病院の設立

陸軍は、大正3年、松井村に東京第一衛戍病院所澤分院を開設し、負傷兵の医療に当たりました。病院は徐々に規模が大きくなり、所澤陸軍病院となった後、一般人の診療を受け付けて国立所澤病院となりました。その後、現在の入間の豊岡病院と合併し、北野の場所に移設し、国立西埼玉中央病院となり、国立所沢病院の跡地には、所沢市市民医療センターが設立されています。

所沢飛行場での初飛行

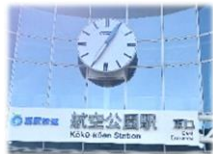
航空発祥の地に根付く神社

日本で初めて飛行場で飛行機が飛んだ日の前日、徳川大尉とその関係者は、飛行成功の祈願に所沢神明社を参拝しました。近年では、徳川大尉の祈願の成功にあやかり、飛行機旅行の安全を祈願して折鶴や紙飛行機を奉納に訪れる人が多いとのこと。また、初飛行から百年を記念して平成23年、境内に鳥船神社（所沢飛行神社）を建て、日本で一番多く製造された「サルムソン2A2型飛行機のプロペラ」が奉納されています。



その他にも、「アンリ・ファルマン機」をイメージした航空公園駅の時計や、飛行機を運ぶために造った『飛行機新道』等、所沢の地には、今なお、シンボルや道の名前に飛行機や飛行場の歴史が強く根付いています。

航空公園駅東口
プロペラモチーフの時計



飛行機新道の旭橋



所沢飛行場は第二次世界大戦後、米軍基地となり、昭和46年以降、段階的に返還され、現在は約7割近くの土地が返還されています。跡地には、国や埼玉県、所沢市の施設や公園が建設されました。また、緑豊かな「所沢航空記念公園」も開園し、園内では、所沢の航空に関する銅像等を歩いて見学できるようになっています。

★航空発祥記念館★

「飛行機の町、所沢」を後世に残すため、所沢の航空の歴史、飛行機の歴史や所沢飛行場の歴史、飛行機の実機を写真と絵で説明しています。

① 空を見上げる少年兵の姿

「飛行機は【操縦士】【通信士】【整備士】の協力で飛行する事を意味する像」

大正8年に陸軍航空学校が開校し、その学生たちは、滑走路工事、掩体壕（えんたいごう）の建設に動員されました。その後、厳しい状況の中、昭和19年に学校内に建てられたこの像は、兵士に活力を与え、崇拜されていました。傷みが酷かったのですが、航空資料調査収集する会が中心となり修復しています。



② フォール大佐胸像

「航空技術指導に來日したフランス航空教育団長の胸像」



③ 大正天皇駐輦（ひつ）碑

「大正天皇が所沢飛行場に行幸された記念碑」

大山巖陸軍大将により、大正天皇行幸の記念として所沢航空整備学校内（現：彩翔亭の位置）に行幸記念の駐輦（ひつ）碑を建てました。

その後、彩翔亭開設に伴い、彩翔亭の入口の道路を隔てた所に移設されました。



★東京航空管制部★

東京管制部は、昭和52年に運輸省（現：国土交通省）によって、移転・設置されました。北海道から関東地方・東海地方の一部・近畿地方南部の航空路管制業務や進入管制業務などを行っています。



④ 木村・徳田両中尉慰霊記念塔

「日本初の航空機事故で殉職した飛行士の記念慰霊塔」
大正2年、青山練兵場（現：神宮外苑）において飛行機等の観覧飛行並びに野外飛行訓練を行い、無事終了した飛行機は、所沢飛行場に向って飛び立ちました。

所沢飛行場に他の飛行機が着陸する中、木村鈴四郎中尉が操縦し、徳田金一步兵中尉が同乗したブレリオ機は所沢飛行場手前の松井村下新井柿木台（現：聖地霊園の駐車場の奥）の上空で突然突風に煽られ左の翼が破壊され、真つ逆さまに地上に墜落しました。両中尉は即死し、この事故が日本初の陸軍航空犠牲者となりました。

二人の英霊を慰めるために義援金を募り、両中尉の英姿の銅像を建立しました。

その後、記念碑は関東大震災で大破しましたが、所沢駅前や、多摩湖園内などを転々とし、昭和55年、所沢航空記念公園の開園に伴って、現在の場所に移設されました。



中村 眞一氏

国土交通省航空局に勤務した後、気象衛星ひまわりの衛星製造、打ち上げに携わり、一号機・二号機を担当。航空局在任中は管制情報処理システムの維持管理を担当。

現在は、所沢市航空資料調査収集する会理事を務める傍ら、所沢観光コンシェルジュとして、航空公園の歴史案内も行っている。

図書館長のつぶやき

所沢市立所沢図書館長 中村まさみ



うれしいことに、「図書館で働きたい」というお話をよく聞きます。理由を尋ねると、思いのほか多くの方が「人と話すのが苦手で、本が好きだから」とお答えになります。

さて、人と話すのが苦手ということでは、なかなか難しい仕事ではないかと思えます。

皆さんのイメージでは、図書館員は人と話をしないようですが、実は言うと、コミュニケーションや会話は図書館員にとって必要となる、大切なスキルなのです。

特にそれを実感するのが、レファレンスサービスです。

「こんな感じ：」と、ふわっとしたイメージで回答をお探しの方も多いので、そこからいかに情報を聞き取り、課題の解決に結びつけるかが重要になります。

「レファレンス」といえば、一つ記憶に残る話があります。

それは、まだ私が若手と呼ばれていた頃、研修で紹介された窓口での経験談です。

ある図書館員が、一件の相談を受けることから、話は始まります。相談者は年配の男性で、戦災孤児だったそうです。保護されたときはまだ幼く、自分の家や家族、名前さ

えも記憶になく、覚えていたのは、ただ親らしき大人と手をつなぎ、見上げた夕暮れ時の街の風景だけだったそうです。

今では名乗る名前も、家庭もあるが、自分は何者なのかという思いが消えない。その思いは本当にあったことなのか、自分が確かにそこにいたのか知りたいたい、という相談です。手がかりは、相談者の記憶にある夕暮れ時の風景だけです。図書館員は、その様子を細かく聞き取りました。おぼろげな記憶を辿るには、丁寧に粘り強く、相談者の言葉を聞き取る必要があったことでしょう。

わかったのは、方角、高い煙突、橋の位置…。その情報をもとに、古い地図などの資料をひとつひとつあたり、相談者が保護された場所を中心に絞り込んでいきました。

最終的に三方所まで絞り込むことはできましたが、確定には至らなかったそうです。ですが、雲を掴むような話と諦めていた相談者は、大変喜んで、満足されたというお話でした。

それは図書館員にとっては、数多い窓口での相談の一つでしたが、相談者には人生に関わる大切なことでした。

この話を聞いた時、「図書館はこんなこともできるのか」という驚きとともに、図書館員に必要なものは、人の気持ちに寄り添い、ニーズに応えようと向き合う姿勢だと気づかされました。

皆様が、日々暮らしていく中では、様々な出来事があり、問題に直面することもあるでしょう。

そんな時には、図書館においてください。私だけではなく、所沢図書館の職員は皆、市民皆様の課題解決のお役に立ちたいと思っています。

図書館公式SNS



【公式】所沢市立所沢図書館

ID : toko_library

図書館情報発信中！

X (旧 Twitter)



Instagram



Facebook



編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

～ ホームページアドレス ～

パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

～ 電話 / FAX ～

本館	04-2995-6311 / 04-2992-1421	富岡分館	04-2943-3636 / 04-2943-6680
所沢分館	04-2923-1243 / 04-2928-8195	吾妻分館	04-2924-0249 / 04-2928-8250
椿峰分館	04-2924-8041 / 04-2928-8148	柳瀬分館	04-2944-4023 / 04-2945-7236
狭山ヶ丘分館	04-2949-1193 / 04-2949-8577	新所沢分館	04-2929-1905 / 04-2929-1906
	松井小学校図書館		04-2992-2796 / 04-2992-2797

2026年 3月 31日発行 復刊いずみ39号 (通巻117号)